

授業コード	D7532ZZ		
科目名	アジア経済論b		
担当者	石井 雄二		
単位数	2	レベル	
開講期間	2017年度 後期	開講曜日	木曜4限
開講キャンパス	本キャンパス		
授業の到達目標およびテーマ	<p>テーマ：日本企業のアジア展開とビジネス戦略</p> <p>今日のアジア経済の発展は、企業の国境を越えた海外進出と生産ネットワーク(サプライチェーン)の構築と相互不可分の関係にある。本講義では、アジア経済の発展について、企業の海外進出の観点から考察を試み、その到達目標は、①日本企業のアジア展開の背景・要因と戦略的意義、②進出先でのビジネス環境の現状、ビジネスチャンスへの対応と問題点、③生産ネットワーク構築の論理とメカニズム、3つの課題にアプローチし、その内容を理解することを目標とする。</p>		
授業の概要	<p>授業の概要のポイントとコンセプトは下記の通りで、これにもとづいて授業を進める。</p> <p>①アジア・ASEANへの企業進出の動向と特徴、②ASEAN経済共同体の形成とビジネスへのインパクト、③グローバル競争下の日本の「ものづくり」産業＝製造業の戦略、④水平的な生産ネットワーク(サプライチェーン構築)の論理とメカニズム、⑤アジアの資金循環と日本への進出企業による資金還流</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 日本の企業が進出するアジアの基礎的知識</p> <p>第3回 ASEANにおける日系企業の動向とビジネスチャンス(1)</p> <p>第4回 ASEANにおける日系企業の動向とビジネスチャンス(2)</p> <p>第5回 ASEAN経済共同体(AEC)の形成とビジネスへのインパクト(1)</p> <p>第6回 FTAによる地域統合化の効果と類型</p> <p>第7回 グローバル競争下の「ものづくり」産業のアーキテクチャ-モジュール化の進展</p> <p>第8回 グローバル競争下の「ものづくり」産業のアーキテクチャ-垂直統合から水平的分業へ</p> <p>第9回 国境を越えた生産ネットワーク構築の論理とメカニズム(1)-フラグメンテーション理論</p> <p>第10回 国境を越えた生産ネットワーク構築の論理とメカニズム(2)-スマイルカーブ</p> <p>第11回 国境を越えた生産ネットワーク構築の論理とメカニズム(3)-企業間連携・分業</p> <p>第12回 アメリカのIT製造業の生き残り戦略と東アジア生産ネットワークの構築</p> <p>第13回 アジアへの企業進出と産業集積、裾野支援産業</p> <p>第14回 アジア進出日系企業の日本への資金還流と税制-「投資立国」への課題</p> <p>第15回 授業の総括とまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p><第1回></p> <p>予習:事前にシラバスに目を通し授業概要を把握しておくこと。</p> <p>復習:授業概要や進め方、成績評価基準、学習上の注意事項を再確認しておくこと。</p> <p><第2回～第14回></p> <p>予習:事前に配布した講義資料(教材)を読み込み、授業の内容やポイントを把握しておくこと。</p> <p>授業中に指示した課題について十分勉強しておくこと。</p> <p>復習:定期的に授業の理解度を確認する宿題(小テスト)を出すので、それに即して勉強すること。</p>		
授業の方法と学習上の留意点	<p>1. 毎回教材資料を配布予定であるので、それを参照しながら受講すること。</p> <p>2. 定期的に小テスト(授業理解度テスト)を実施する。</p> <p>3. 授業を総括するテスト(平常点)を前期授業の最後に実施する方針である。</p> <p>4. 毎回の授業は、指定した座席表に着席して受けること。</p> <p>なお、部分的には学生諸君との双方向型の授業の手法を導入するので、積極的に意見や質問を出してほしい。</p>		
成績評価基準	成績評価の基準は、小テスト(確認テスト)30%程度、前期授業最後の総括テスト70%程度とする。		
教科書	特に指定しない。		
参考文献	特に指定しない。必要とあれば、授業中その都度指示する。		
関連して受講することが望ましい科目	「国際経済学」「国際金融論」「企業経済学」「経済地理学」「地域経済論」「海外フィールドワーク実習」など。		
シラバス分野	学科科目		